

九州歴史資料館	行事・事業予定
展 示	常 設 展：4月 2日(火)～ 9月29日(日)「歴史(とき)の宝宝箱」
	特 集 展 示：4月 2日(火)～ 7月15日(月・祝) 特集展示「きゅうおにとタイムトラベラー大昔の暮らしと国づくり」 7月17日(水)～10月 6日(日) 特集展示「やきものはじめの一步③やきものの文様」 8月 6日(火)～ 9月29日(日) 特集展示「福岡鉄道遺産ものがたり⑩～西日本鉄道編～」
古代体験	パネ ル 展：4月 2日(火)～ 6月30日(日) 保存科学成果展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2023～2024」 7月 2日(火)～ 9月 8日(日)「世界遺産『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」 9月10日(火)～12月 8日(日)「名誉館長パネル展・シルクロードの考古学」
	毎週日曜日に、九歴ボランティアによる古代体験実施中(予約不要、有料・無料有り)
ミュージアムトーク&バックヤードツアー	毎週日曜日の14時からミュージアムトーク(予約不要 第1・3展示室開催の場合は有料)、15時からバックヤードツアー(予約不要 無料)を実施
講座・イベント	九歴講座：毎月第2土曜日 定員150名 指定席は要事前申し込み タペのギャラリートーク：7月26日(金)特集展示「やきものはじめの一步③」(遠藤啓介) 8月30日(金)特集展示「福岡鉄道遺産物語⑩」(渡部邦昭)
	イ ベ ント：4月21日(日) 桜コンサート 5月 5日(日) ボランティアイベント「子どもの日工作イベント」 5月22日(水) ボランティアイベント「大人組紐講座 基礎編」 6月 1日(土) ミュージアムナイト 7月30日(火)～ 8月 1日(木) 九歴ジュニア考古学ゼミ 8月3・4日(土・日) キッズミュージアム「きゅうれき絵画教室」 9月 11日(水)ボランティアイベント「大人組紐講座 上級編」
発掘調査	県内遺跡発掘調査 4月～9月

※講座・イベントの詳細情報は、当館ホームページやチラシなどでご確認ください。また、内容・開催期間は変更することがあります。詳しくは当館までお問い合わせください。

求 菩 提 資 料 館	常 設 展：「求菩提修験道の世界」
	企 画 展：4月20日(土)～ 6月2日(日)「求菩提資料館開館50周年春の特別展 くぼて森の美術館～収蔵作品展～」 7月20日(土)～ 9月1日(日) 夏のミニ企画展「夏休み ときめきの岩石」
甘木歴史資料館	市民歴史講座：6,7,9,10,11月に開講予定
	史跡ガイド活動：申し込みに応じて豊前市内の史跡をガイドします。
柳 川 古 文 書 館	常 設 展：第一展示室「朝倉の歴史・民俗資料」、第二展示室「朝倉地域の歴史・考古資料」
	企 画 展：5～7月 田中富美男写真展「朝倉のこどもたち -遊び-」(九州歴史資料館三分館合同企画展) 自主展示会：3月31日(日)～ 4月 7日(日)「甘木紋干支展及び作品展」 4月23日(火)～ 4月28日(日)「愉しのかきま書展」 5月26日(日)～ 6月 2日(日)「樋口先生の遺作展」ほか
柳 川 古 文 書 館	講 座：「秋月藩成立400年と地域の歴史」要請に応じて実施
	常 設 展：4月24日(水)～9月29日(日)「日記の世界」
柳 川 古 文 書 館	併 設 展：4月24日(水)～6月30日(日)新収蔵史料「小野家史料の紹介」
	講 座：古文書解読講座(初級編・中級編・応用編)毎月1回(第4日曜日) 古文書入門講座 8月中旬から9月上旬の3日間を予定

※各館の行事や休館日(閉室)等については、各館ホームページで確認するか、または直接お問い合わせください。



〒838-0106 福岡県小郡市三沢5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834 URL <https://kyureki.jp/>



ホームページ X (旧Twitter) きゅうれきチャンネル

開館時間 午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)
観 覧 料 一般210(150)円 大学生・高校生150(100)円
満65歳以上・中学生以下・障がいのある方(同伴介護者1名)無料
※土曜日は高校生も無料
※()内は団体料金(20名以上)
休 館 日 月曜日(ただし祝日・振替休日の場合はその翌日)
年末年始(12月28日～1月4日)



●公共交通機関
《西鉄電車》天神大牟田線三国が丘駅から約700m
《JR》鹿児島本線原田駅からタクシーで約10分
●自動車
《九州自動車道》筑紫野I.C.から約15分
《大分自動車道》筑後小郡I.C.から国道500号・県道88号線経由で約15分
《福岡都市高速》水城出口から国道3号線経由で約25分

九歴たより

No.59
2024.4

九歴たより 令和六年四月(第五十九号)

福岡県近世窯業関係遺跡の調査成果

福岡県には「小石原焼」や「上野焼」「高取焼」といったやきものが知られていますが、それらには江戸時代から続く歴史があります。しかしながら、江戸時代の窯跡など窯業に関する遺跡の実態は十分に明らかにされていませんでした。福岡県は令和2年度から近世窯業関係遺跡の分布調査をおこない、将来にわたって保護する基礎資料を作成しました。

調査では、実際に現地を歩くことにより、従来あまり知られていなかった窯跡を確認するなど数多くの成果が得られました。窯跡には焼け損じた陶磁器をはじめ、焼く際に用いられた道具や窯の壁土などが散布している状況を確認し、記録しました。これらにより窯の年代や、陶工の系譜といった数多くの所見を得ることができました。

能古焼窯跡(福岡市西区)18世紀

江戸時代の陶磁器の窯からは、どのようなものが出土するのでしょうか。美術館や博物館で展示されるような立派なものは、まず出土することはありません。ほとんどは、ひずんだり割れたりしたもので、焼く際に捨てられた失敗品です。このことは、登り窯の温度のコントロールが難しかったことを物語っており、陶工の苦労をうかがうことができます。



焼き損じた磁器 役所畑新窯出土(須恵町)18世紀



様々な窯道具 役所畑新窯出土(須恵町)18世紀

失敗品よりもたくさん出土するのが「窯道具」です。登り窯では、一度にたくさんの製品が焼かれますが、製品同士あるいは窯の床にくっつかないように、窯詰の際に道具が使われます。窯道具は商品として出荷されるものではなく、使い終わって窯の横に捨てられているのです。まったく見栄えのしない窯道具ですが、窯の年代や技術的な系譜を考える上でたいへん多くの情報を含んでおり、極めて重要な資料なのです。

編集・発行 九州歴史資料館

令和6年度上半期の展示

文化財サイエンス・ラボ

Study.16

新型コロナウイルス感染から

人と資料を守る



特集展示「やきものはじめの一步③やきものの文様」

令和6年7月17日(水)～10月6日(日) 第2展示室

本特集展示は、今回で3回目です。一昨年は①やきものの種類と形、昨年は②やきものの色について、出土品などで展示し、解説を行ってきました。今回は最終回として③文様をとりあげ、文様の施し方(刻花、鉄絵、染付などの技法)や種類(植物や動物など)、その意味などについて展示で解説いたします。一連の特集展示で示した「やきものの種類」「形」「色」「文様」は私たちが博物館や美術館、生活などで陶磁器を見るときポイントとなります。



青磁蓮弁文碗(那珂川市五ヶ山東小河内遺跡出土 当館蔵)

特集展示「福岡鉄道遺産ものがたり⑩～西日本鉄道編～」

令和6年8月6日(火)～9月29日(日) 第1展示室近代コーナー

令和6年に福岡～久留米が開通100周年を迎える西日本鉄道の歴史について、当時の名所図絵や絵葉書など、文書資料を中心とする鉄道遺産を通してご紹介します。鉄道計画の夢が詰まった公文書なども展示予定です。開幕前の7月13日(土)には、関連の九歴講座も開催します。



九州鉄道沿線案内(当館蔵)

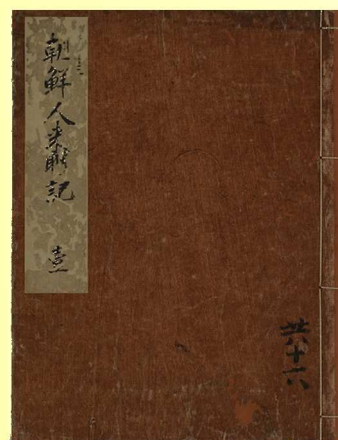
九歴名品探訪
Vol.16

ふくおかはんちょうせんつうしんしきろく

福岡藩朝鮮通信使記録 【ユネスコ「世界の記憶」】

平成29年(2017)10月31日に「朝鮮通信使に関する記録:17世紀～19世紀の日韓間の平和構築と文化交流の歴史」が、ユネスコの「世界の記憶(世界記憶遺産)」に登録されました。朝鮮通信使は、江戸時代、朝鮮から日本へ国書を持って派遣された外交使節で、豊臣秀吉の朝鮮出兵で断絶した国交の回復交渉中に派遣された使節を第1回(1607年)とすると、おもに江戸幕府の将軍の代替わりを祝うため、第12回(1811年)まで派遣されました。

当館が所蔵する黒田家文書のうち、宝暦13～14年(1763～64)の第11回通信使を、福岡藩が相島で応接した記録15冊が「世界の記憶」に登録されました。副使船の座礁という事故に対し、通信使と対馬藩、福岡藩が誠意をもって解決に努めたことが評価されたものです。



朝鮮人來聘記 卷之一(当館蔵)

平成31年(2019)に発見され、全世界に拡大した新型コロナウイルス感染症は、私たちの日常生活に多くの影響を与えました。

コロナ禍に見舞われていた時、当館では、数回にわたる臨時休館を余儀なくされ、企画展期間の短縮や講座、イベントを延期し、来館者のみなさまにご不便をおかけしました。私たち学芸員も在宅勤務することとなりましたが、展示する実物の資料を家に持って帰ることはできませんので、調査等の活動に制限がありました。

しかし、休館で展示室を閉室しても、そこにある展示資料に対する適切な温湿度を維持し、管理し続けなくてはなりません。展示資料を守るための厳密な環境管理は、日常業務として休館中でもストップしないのです。したがって、この日常を続けるためには、勤務する学芸員、そして、再開館後の来館者という「人」への感染防止対策が求められました。

不特定多数の人が出入りする施設での対策には、いわゆる「3密(密閉、密集、密接)の回避」や「消毒」があります。当館のような博物館は、建物自体が、適正な温湿度の管理や、害虫の侵入を防止するため、気密性の高い造りになっていますので、こうした対策は、資料への影響を考慮すると、相反するところもあります。したがって、実施には慎重にならざるを得ません。

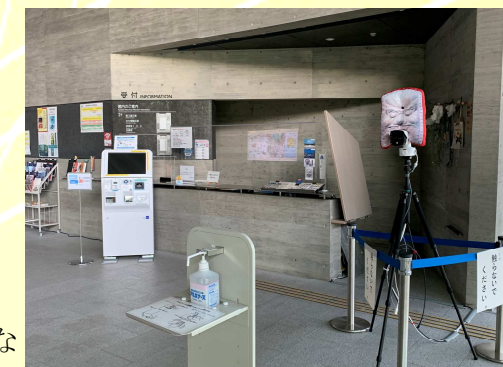
そこで対策は、「学芸員、来館者の健康確認」「密集、密接の回避」「消毒の機会を減らす備品接触の制限」というように、ウィルスをなるべく館内に持ち込まず、広がらないよう努めてきました。具体的には入館時の検温・手指消毒、入館の事前予約や人数制限、体験アイテムやソファ等備品の撤去や使用制限等に取り組みました。

感染から人を守ることが最優先であることはいうまでもありませんが、資料を未来にわたって守り、伝えていく役割を担う博物館では、来館者の行動制限を重視させていただくこととなり、みなさまにはご不便をおかけしたところで

昨年5月から5類感染症に移行して以降、徐々に日常生活を取り戻しているところかと思えます。当館もいつでも、ふらっと立ち寄っていただけるようになりました。今後、活動が制限されるような事態にならないことを願うとともに、コロナ禍での経験を記録、保存し、将来に伝えていくことも取り組まなければならないと思います。



展示室の照明は消えても環境管理は続く



検温と手指消毒が人も資料も守ることにつながる

パネル展 会場 文化情報広場

「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2023-2024」 会期 令和6年3月26日(火)～6月30日(日)

船原古墳に隣接して、6世紀後半～7世紀初頭と思われる馬具や武器・武具を納めた埋納坑が発見されて今年で10年になります。本展では、10年の科学的調査の成果を紹介します。

「世界遺産『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」 会期 令和6年7月2日(火)～9月8日(日)

通常立ち入ることができない世界遺産沖ノ島を美しい写真パネルで紹介。

「名誉館長パネル展・シルクロードの考古学」 会期 令和6年9月10日(火)～12月8日(日)

かつてユーラシア大陸を結んだシルクロードの道の1つ「オアシスの道」を、名誉館長講座に合わせて、西谷正名誉館長撮影の写真で解説します。